613-000925 Rev.C 111215

Allied Telesis

CentreCOM® GS908SS/916SS/924SSリリースノート

この度は、CentreCOM GS908SS/916SS/924SS をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ファームウェアバージョン　1.5.0

2　本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.4.1 から 1.5.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

2.1　SET SYSTEM コマンドのオンラインヘルプで表示されるパラメーターの説明に一部誤りがありましたが、これを修正しました。

2.2　ENABLE PORTAUTH コマンドのオンラインヘルプの表記に誤りがありましたが、これを修正しました。

2.3　FTP によるファームウェアの転送に失敗した後、再度本製品の FTP サーバーに接続すると、本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.4　SNMP マネージャーにおいて、探索条件として Telnet サーバー機能が動作しているかどうかを確認する（動作している機器に対しては Telnet 接続をする）という指定をして、機器の自動探索を行うと、本製品から Telnet 接続ができなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

2.5　Telnet 接続時、RESTART コマンドを実行し、本製品を再起動するかどうかのメッセージ（Do restart system now ? (Y/N):）が表示されたところで、Telnet セッションを切断すると、以後本製品に対して Telnet 接続ができなくなっていましたが、これを修正しました。

2.6　RADIUS パケットの Framed MTU を 1024Byte から 1500Byte に変更しました。

2.7　RADIUS アカウンティング機能において、コンソール、Telnet、Web GUI のいずれかによるログイン認証時に、本製品から送出される Accounting-Interim-Update パケットの NAS-Port 属性に不正な値が付与されるため、本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.8　RADIUS アカウンティング機能有効時、Web GUI でログイン認証を行ったあと、画面の表示更新を繰り返し行うことによって再び表示されたログイン画面において、ログイン認証に失敗することがありましたが、これを修正しました。

2.9 RADIUS アカウンティング機能有効時、Web GUI でログイン認証を行ったあと、CLI からログアウトをすると、CLI でログイン認証が行われていないにもかかわらず、Accounting-Request パケットが送信されていましたが、これを修正しました。

2.10 SET QOS HWPRIORITY コマンドの QUEUE パラメーターに指定した値が正しく処理されないことがありましたが、これを修正しました。

2.11 トランクポートに対して RESET SWITCH または RESET SWITCH PORT コマンドでポートリセットを行うと、ポートの MDI/MDI-X 設定（SET SWITCH PORT コマンドの POLARITY パラメーターによる設定）がデフォルト（MDI-X）に戻っていましたが、これを修正しました。

2.12 ループガード（LDF 検出 / 受信レート検出）のアクションで無効になったポートに対し、ENABLE SWITCH PORT コマンドで強制的にポートを有効に戻すと、その後該当ポートの BLOCKTIMEOUT パラメーター（自動的に実行前の状態に戻るまでの時間）の設定が正しく動作しなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

2.13 タグ VLAN を設定したポートでポートセキュリティーを設定した場合、学習済みの端末からであっても本体への通信は行えませんでしたが、これを修正しました。

2.14 ループガード（LDF 検出 / 受信レート検出）のアクションを LINKDOWN にし、INTERVAL パラメーター（LDF の送信間隔）、BLOCKTIMEOUT パラメーター（自動的に実行前の状態に戻るまでの時間）を極端に小さな値に設定して運用した場合、ポートがリンクダウンしたままになることがありましたが、これを修正しました。

2.15 COPPER（1000BASE-T ポートのみ使用可能）に設定されたコンボポートでポートトランキングを構成すると、通信できない場合がありましたが、これを修正しました。

2.16 認証ポートの所属 VLAN の設定を変更したとき、リブートが発生することがありましたが、これを修正しました。

2.17 タグ VLAN を使用している場合、EAP パケット透過時に誤った VLAN ID が付与され、認証が正常にできないことがありましたが、これを修正しました。

2.18 ポート認証において、サプリカントからの EAP パケットの一部が RADIUS サーバーに転送されないことがありましたが、これを修正しました。

2.19 ポート認証において、EAP-PEAP 認証で RADIUS サーバーと通信したときにリブートが発生することがありましたが、これを修正しました。

2.20 本製品が Authenticator のとき、スタティックエントリーとして FDB に登録済みの MAC アドレスを持つ Supplicant の認証に成功していましたが、認証できないように修正しました。

2.21 該当ポートが所属するタグなし VLAN とゲスト VLAN が一致する場合、ポート認証が成功した状態でその VLAN から該当ポートを削除するとゲスト VLAN が正しく動作しませんでしたが、これを修正しました。

2.22 存在しないポートや名前など不正な文字列を含むアドレス（URL）を指定して Web GUI 画面を表示させようとすると、本製品がクラッシュする場合がありましたが、これを修正しました。

2.23 Web GUI において、Internet Explorer 8 を使用したとき画面が正しく表示されるように修正しました。

2.24 Web GUI において、ログインパスワードに設定された文字列のうち 9 文字目以降がログイン認証に使用されていませんでしたが、これを修正しました。

2.25 Web GUI のログ設定画面で、ファシリティーの英語表記に誤りがありましたが（Facirty)、正しい表記（Facility）に修正しました。

2.26 Web GUI で、デフォルト VLAN など本来エラーになって削除されるべきでない VLAN を削除しようとすると、エラーにならずに該当 VLAN の所属ポートが削除されることがありましたが、これを修正しました。

2.27（GS908SS のみ）Web GUI の「スイッチ設定 - ポート」画面で「全ポート変更」ボタンをクリックして「ポート設定」画面を開くと、GS908SS では不要な「コンボポート（Combo)」の項目が表示されていましたが、表示されないように修正しました。

2.28 Web GUI の「トランク設定 - 変更」画面で登録済みのトランクグループ名に移動して Enter キーを押すと、設定を反映せずに「トランク設定 - 追加」画面が表示されていましたが、正しく設定を反映して「スイッチ設定 - トランキング」画面に戻るように修正しました。

2.29 認証済み Supplicant が存在する Authenticator ポートを、Web GUI で所属 VLAN から削除する設定ができませんでしたが、これを修正しました。

2.30 Web GUI でポート認証有効ポートに対してポートセキュリティーの設定をしようとしたときに、適切なエラーメッセージ「ポート認証が有効なポートには設定できません。」が表示されるように修正しました。

2.31 Web GUI において、Internet Explorer 7 および 8 の設定によっては、ファームウェアの転送に失敗する場合がありましたが、これを修正しました。

3　本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **1.5.0** には、以下の制限事項があります。

3.1　フラッシュメモリーの空き容量

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

3.2　FTP 接続時のホスト種別

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

FTP クライアントでホスト種別を自動判別にした場合、本製品に正しく FTP 接続できないことがあります。

3.3　最新ログメッセージの表示

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

○　PURGE LOG および FLUSH LOG OUTPUT コマンド実行直後に、SHOW LOG コマンドに TAIL を指定して実行すると、本製品がリブートします。

○　SHOW LOG コマンドにおいて、TAIL パラメーターで指定した件数のログが表示されない場合があります。

3.4　SNTP モジュールのリセット

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNTP」

SNTP モジュールを無効に設定したあと RESET NTP コマンドを実行すると、Last Updated と Last Delta の値が初期化されません。

3.5　コンソールの画面表示

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

SET CONSOLE コマンドの PAGE パラメーターに OFF（または 0）を指定していると、Ctrl/C（Ctrl キーを押しながら C キーを押す動作）で画面出力を中止できません。

3.6　イベントメッセージ表示中の Telnet 接続 / 切断

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

Telnet ログイン時、画面にイベントメッセージが表示されている最中に、Telnet 切断や新たな Telnet 接続が行われると、本製品がリブートする場合があります。

3.7　アクセスフィルター

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アクセスフィルター」

SET ACCESS FILTER ENTRY コマンドのエラーメッセージでフィルター名が正しく表示されません。

3.8 RADIUS サーバー

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「認証サーバー」

○ 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
SET RADIUS コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ＝デフォルト）の場合、本現象は発生しません。

○ SET RADIUS コマンドで DEAD-ACTION=PERMIT、DEADTIME=0 を設定した場合、認証に失敗することがあります。

3.9 アクセスフィルター

参照 「コマンドリファレンス」/「フォワーディングデータベース」

DELETE SWITCH FILTER コマンド（または Web GUI の「機器監視－ FDB」）で、登録されているスタティックエントリーの削除を実行すると、削除失敗のエラーが表示されるにもかかわらず、スタティックエントリーは削除されます。

3.10 受信レート検出

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

3.11 スイッチング：ポート

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

○ デフォルト VLAN 以外の VLAN に所属するポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで ACCEPTABLE パラメーターに VLAN を指定し、設定を保存後本製品を再起動すると、起動時に「Port X does not belong to the VLAN specified」というエラーが表示されます。
エラーは表示されますが、設定は正しく反映されます。

○ DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効にしたポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED パラメーターを変更すると、ポートが正常にリンクしなくなります。

○ スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。

3.12 EAP 透過機能

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

EAP 透過機能有効時、タグなしポートからタグ付きパケットが送出されることがあります。

3.13 LDF 検出

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

○ ループガードの LDF 検出において、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの SECURE パラメーターに ON を指定した場合、LDF の送信から受信までに 1 秒以上かかると、受信すべき LDF を破棄します。

○ ループガード（LDF 検出 / 受信レート検出）において、BLOCKTIMEOUT パラメーター（自動的に実行前の状態に戻るまでの時間）に NONE が指定されていると、アクションで無効になったポートに対してケーブルの抜き差しをしても、実行前の状態に戻りません。
アクション実行前の状態に戻すには、該当ポートのループガード機能をいったん無効に設定し、再度有効に設定しなおしたあと、ENABLE SWITCH PORT コマンドによりポートを有効にします。

3.14 コンボポート

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

○ SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE を指定して実行すると、コンボポートがリンクアップしないことがあります。

○ リンクアップしているコンボポートに対して、フローコントロールを有効に設定すると、該当ポートがリンクダウンします。

3.15 IGMP Snooping

参照 「コマンドリファレンス」/「IGMP Snooping 」

○ 始点 IP アドレスが 0.0.0.0 で、同一 MAC アドレスの IGMP Report メッセージを複数回続けて受信すると、受信の際にグループのタイマーが更新されません。SHOW IGMPSNOOPING コマンドで表示される Address（IGMP グループに所属しているノードの MAC アドレス）に、受信したメッセージの数分だけ同一 MAC アドレスのエントリーが追加されます。
また、始点 IP アドレスが 0.0.0.0 の IGMP Leave メッセージを受信しても、ルーターポートに転送されず、離脱処理が行われません。

○ IGMP Snooping でグループが登録される前に、マルチキャストデータを高レートで受信しつづけると、グループが登録されていない状態では IGMP パケットが転送されない場合があります。

○ IGMP Snooping とマルチキャスト MAC アドレスのスイッチフィルターは併用できません。

3.16 ポート認証

参照 「コマンドリファレンス」/「ポート認証」

Authenticator ポートにゲスト VLAN と Piggy back モード有効（PIGGYBACK=ENABLED）の設定がされているとき、Supplicant からの応答がタイムアウトすると、ゲスト VLAN 所属ポートであってもゲスト VLAN 内での通信ができなくなります。

3.17 Web GUI

参照 「コマンドリファレンス」/「Web GUI」

○ Web GUI のポートステータス表示画面において、コンボポートの極性自動切替（AutoMDI）に「Enable」、極性（Polarity）に「MDI」が表示されますが、コンボポートでは MDI/MDI-X の設定変更はできません。

○ 「セキュリティー設定－ポートセキュリティー」において、「全ポート変更」ボタンからセキュリティーモードを設定しようとするとエラーが発生します。全ポートのセキュリティーモードを設定するには、「ポート一覧」からコンボポート以外のポートを選択して「変更」ボタンで設定するか、SET SWITCH PORT コマンドを使用してください。

○ 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。

○ 「ポート認証 - ポート設定」画面において、Authenticator または Supplicant ポートの設定を行うときに、指定ポートに併用不可機能が設定されているポートが含まれていても（下記のリスト参照）、エラーにならずに設定ができてしまいます。
以下のポートを含んで、Authenticator ポートに設定しようとした場合：
・ ミラーポート
・ トランクポート
・ スタティックエントリー登録ポート
・ ポートセキュリティー有効ポート
・ コンボポート
以下のポートを含んで、Supplicant ポートに設定しようとした場合：
・ ミラーポート
・ トランクポート

○ 「ポート認証 - ポート設定」画面において、モードを Single、かつ、ダイナミック VLAN を Disabled に設定し、いったん別画面を表示後、再度ポート設定画面に戻ると、ゲスト VLAN の VLAN 名が入力不可の状態（グレーアウト）になります。

○ 「ポート認証 - ポート設定」画面において、Authenticator ポートのモード（Mode）に Multi を指定していても、Piggy back モード（PiggyBack）で Enabled の選択が可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません（Multi-Supplicant モードのポートでは、Piggy back モードは有効になりません）。

○ 「機器監視 - システム情報」画面において、「詳細情報表示」ボタンをクリックしたときに表示される「システム－詳細表示」で情報が一部欠落します。

○ 「機器監視 - ログ」画面において、「ログ表示条件」の「表示件数」に「#」を入力して「ログ表示」または「ログ保存」をクリックすると「500 Internal Server Error」が表示されます。

○ 「機器監視 - FDB」画面において、画面項目に「トランクグループ名（ID）」という項目がありますが、トランクグループ ID の指定はできません。実際には、トランクグループ名のみが指定できます。

○ 「マネージメント - ポートリセット」画面において、通信速度が 10Mbps または 100Mbps のトランクポートを複数ポート指定してリセットした場合、link-down/link-Up を検知できず、link-down、link-up メッセージが表示されない場合があります。

10Mbps または 100Mbps のトランクポートのリセットを実行する場合には、Web GUI ではなく、コンソールまたは Telnet 接続からコマンドで実行してください。

○ 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.5.0 (613-000924 Rev.C)」の補足事項です。

4.1 SNTP

参照 「コマンドリファレンス」/「SNTP」

登録された SNTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

4.2 IP

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

ICMP エコー要求（Ping）パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

4.3 スイッチング

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

○ イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティーによってスタティックエントリーとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。

○ SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。

○ SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファーのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。

○ タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます

○ SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500（pps）以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります（ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通）。

○ スイッチポートの通信速度を固定設定している場合、該当ポートがリンクダウンしていても、同一 VLAN に所属する他のポートでブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習ユニキャストのいずれかのパケットを受信すると、該当ポートの送信カウンターがカウントアップします。

4.4 LDF 検出

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

○ LDF のデフォルト送信間隔は 120 秒です。LDF の検出時間を短くしたいときは、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの INTERVAL パラメーターで送信間隔を短く設定してください。LDF 検出機能の効果を最大にするには、送信間隔を最小値の 1 秒に設定する必要があります。ただし、送信間隔を短くするとソフトウェア処理に負荷がかかり、本製品宛通信の応答時間など、他の機能の動作性能が低下する可能性があります。

○ 対向機器のポート間でループが発生したような場合、対向機器のフローコントロール機能などにより、送信した LDF を本製品が受信できない可能性があります。その場合、LDF 検出によるループガード機能は動作しません。

4.5 IGMP Snooping

参照 「コマンドリファレンス」/「IGMP Snooping」

○ Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMPSNOOPING TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。

○ 存在しないマルチキャストグループ宛ての Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

4.6 ポート認証

参照 「コマンドリファレンス」/「ポート認証」

○ SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI（Multi-Supplicant モード）を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません（Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません）。

○ Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス（01:80:C2:00:00:03）ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

○ ポート認証機能において、SET AUTHENTICATION コマンドの DEAD-ACTION パラメーターに PERMIT を指定し、RADIUS サーバーからの応答がないときに通信を許可するよう設定する場合は、下記の条件を満たすように各パラメーターを設定してください。

SERVERTIMEOUT > TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) × RADIUS サーバー数

SERVERTIMEOUT	SET PORTAUTH PORT コマンドのパラメーター。デフォルト 30 秒
TIMEOUT	SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 6 秒
RETRANSMITCOUNT	SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 3 回
RADIUS サーバー数	ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドで登録した RADIUS サーバーの数

特に RADIUS サーバーを 2 台登録する場合は、各パラメーターがデフォルトのままだと条件を満たさないため、条件を満たすように設定を変更する必要があります。

○　ポート認証機能でゲスト VLAN やダイナミック VLAN を使用し、Supplicant が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する場合は、認証前の VLAN において DHCP サーバーのリースタイムを短く設定する必要があります。

4.7　Web GUI

参照「コマンドリファレンス」/「Web GUI」

スイッチ設定 / ポート / ポート設定画面の「設定」ボタンを押すと、対象ポートがいったんリンクダウンします。
設定内容に変更がない場合や、ポート名称だけを変更した場合などにもリンクダウンしますのでご注意ください。

5　未サポートコマンド

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
ENABLE QOS
DISABLE QOS
SHOW QOS
RESET PORTAUTH PORT

6　コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900SS シリーズ コマンドリファレンス 1.5.0 (613-000924 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

※パーツナンバー「613-000924 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

http://www.allied-telesis.co.jp/